

# 地域を支える新しい力に

## — 鶴岡市「地域おこし協力隊」 —

日本の総人口は平成二十一年をピークに減少へ転じ、出生数も百万人を切るなど、減少傾向に歯止めがかかっていません。本市でも人口減少は止まらず、特に、離農や若者の流出に伴って過疎化が進行してきた中山間地域の農村集落では、集落機能が弱まり将来的には集落の維持が困難になることが心配されています。

このような中、安心して暮らせる・明るい活力ある地域として維持・強化

するために、住民自ら課題や将来像を話し合いながら、地域づくり活動に取り組む集落があります。

今回の特集では、このような住民主体の地域づくり活動を支える「地域おこし協力隊」を取り上げ、大鳥地区と福栄地区における隊員の取り組みなどについて紹介します。

■問合せ 本所地域振興課 ☎25・2111 内線585

### 地域おこし協力隊とは

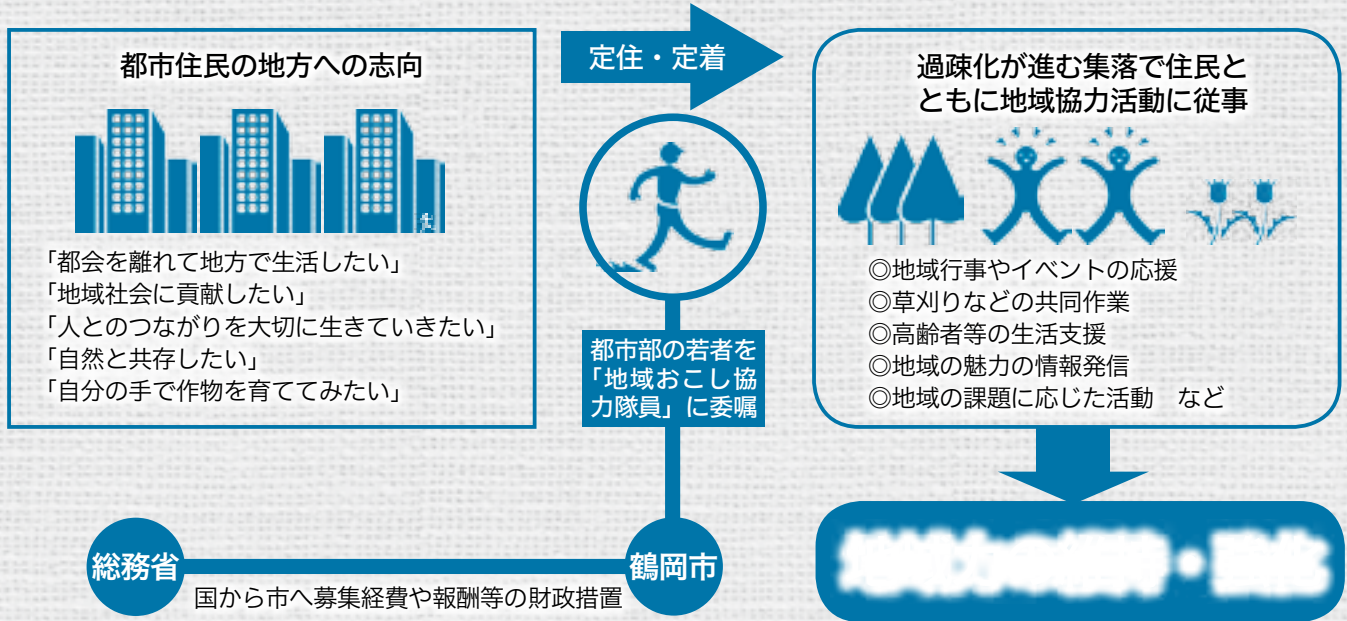
「地域おこし協力隊」は総務省が創設した外部人材活用制度です。人口減少や少子高齢化に悩む自治体において、三大都市圏等の都市部に住む若者の熱意や行動力を取り込み、地域力の維持・強化を図ることを目的としています。

協力隊を導入する自治体は、都市部の若者に対して募集や面接を行い「地域おこし協力隊員」として委嘱します。隊員は約三年間の活動期間中、地域に住み込みながら地域行事やイベントの応援、地場産品の開発・販売、農林水産業への従事、高齢者の生活支援などの地域協力活動を行います。期間後は、協力隊として培った経験や技術、ネットワークを生かし、同じ地域への定住や定着につなげていくものです。

制度が始まった平成二十一年度の隊員は八十九人でしたが、今年度は千五百十一人。四百四十四の自治体で活動しています。また任期を終え、そのまま同じ地域に定住した隊員は約六割に上りました。進路は特産品を生かした

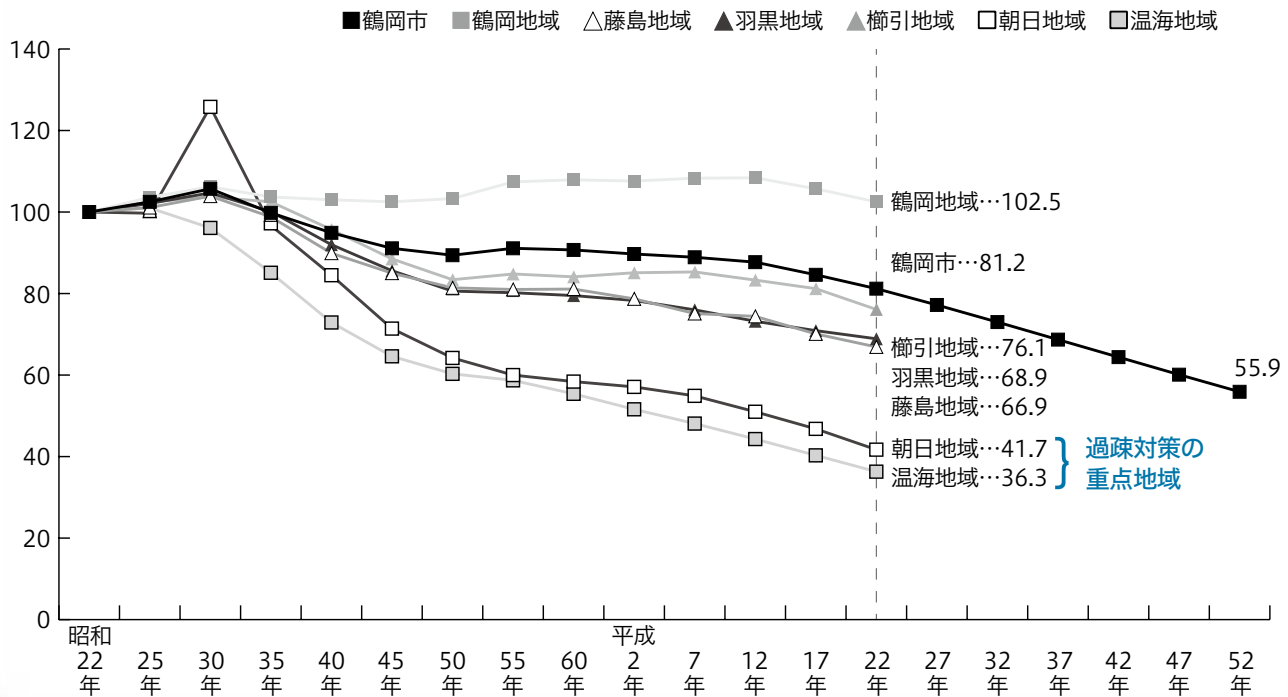


## ■「地域おこし協力隊」の事業イメージ



## ■鶴岡市の人口の推移（昭和22年を100とした場合）

（資料）国勢調査。平成27年度以降は国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口（平成26年3月時点）



両地域ではこの事業を通し「地域をもっと良くしたい」「住み良い地域にしたい」「地域資源を生かしたい」という思いを基に、住民同士で集落の課題や将来像について話し合いを重ねてきました。現在、十八集落十六団体がこの内容を集落ビジョンとしてまとめ、地域づくり活動を始めています。

本市では、こうした活動を支援するため協力隊を導入し、二十五年度に朝日地域大島地区へ二人の隊員を、また今年度に温海地域福栄地区へ三人の隊員を配置しました。五人の隊員は、地域住民とともに汗をかきながら地域協力活動に取り組んでいます。

### 過疎対策としての協力隊

本市は、十七年度の市町村合併によって過疎地域自立促進特別措置法における過疎地域に指定されました。特に人口減少が著しい朝日・温海地域を過疎対策の重点地域に位置付け、地域力の維持・強化を図るため過疎地域集落対策事業を行っています。

起業、営農組織や森林組合、NPO法人への就業、新規就農などで、地域活性化につながる人材として活躍の場を広げています。国は昨年十二月に策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、地方への新しい人の流れをつくるために、協力隊についての制度拡充を決めました。来年度には隊員を三千人へ、三十二年度には四千人へ増やすことが計画されています。

地域おこし協力隊 砂山元



いろいろなことを見つめ、試行錯誤し、深く学ぶことができています。これまで通り自然体で大鳥の方々と暮らしを紡ぎたいです。

地域おこし協力隊 田口比呂貴



住む住まないでは測れないような人生の学びを体験していると思います。最終年度は大鳥を深く掘り下げた内容の雑誌を作ります。

生きがいサロン



家に閉じ籠もりがちになる冬期の高齢者の健康・生きがいづくりを目的に、各集落の公民館で実施しました。

### 隊員の持ち込み企画

- 耕作放棄地の再生
- 移動+買物+物流支援
- 『大鳥史』の作成
- 首都圏でのマルシェ出店
- 各種ワークショップ

### 協議会と協働の取り組み

- 伝説の巨大魚タキタロウ調査
- 生きがいサロン
- 大鳥の技「山の教室」 など

## 大鳥地区 地域おこし協力隊

### ■平成25年度～27年度の活動

- ①地域行事やイベントの応援
- ②地域づくり活動への参画
- ③自然学習事業の指導補助
- ④地域特産物の活用
- ⑤草刈りなどの共同作業
- ⑥高齢者の生活支援
- ⑦情報発信

### 大鳥地区の活性化に向けた課題

- ▷高齢者世帯の生活支援、高齢者見回り
- ▷コミュニティビジネスの立ち上げ
- ▷生きがいサロンの開設
- ▷交流と地域イベントの展開
- ▷農林産物の生産から販売までの仕組みづくり

隊員の事務室がある大鳥自然の家で働く三浦勝子さん

大鳥の暮らしにもすぐになじんで、地域のことを一所懸命してくれています。自分も二人から若いエネルギーを分けてもらっています。夏祭りで楽しそうに踊っている姿が忘れられませんね。



隊員の家の前のタキタロウ館で働く工藤静代さん

自分が楽しめる場所を大鳥でいろいろ探しているようですね。それを外に向けて発信したことで、大鳥に足を運ぶ人も増えました。二人を孫のように思っている人は私だけではないと思いますよ。



タキタロウ調査



大鳥池で30年ぶりとなるタキタロウの生息調査を協議会と隊員、公募した調査メンバーで実施しました。

## 大鳥地区と地域おこし協力隊

大鳥地区では松ヶ崎・寿岡・繁岡の三集落で構成する大鳥地域づくり協議会が、平成二十三年度に集落ビジョンを策定しました。一方、当時の地区人口は八十五人。四人に三人が六十五歳以上で二十代の若者は皆無という状況でした。集落ビジョンの実現に向けた地域づくり活動を実践するマンパワーが不足していたことから、協力隊を受け入れました。

隊員の活動は「寄り添い型の支援」が特徴で、地域行事やイベントの応援、草刈りや除・排雪などの生活支援、農作業のサポートやお茶のみサロンの運営など。多岐にわたる地域に密着した活動を行い、住民との信頼関係を築いてきました。

三年目の今年度は、隊員が得意とする小さな仕事をたくさん生み出し、それを組み合わせて収入源へ結び付けることに挑戦しています。また山菜・キノコ栽培などの中山間地域農業やマタギといった山村のなりわいを基盤とする生活の確立にも取り組んでいきます。

## 福栄地区と地域おこし協力隊

福栄地区では菅野代・温海川・木野俣・越沢・関川の五集落が中心となつて福栄地域協議会「福の里」を二十五年度に設立しました。福の里では自然や文化、食などの地域資源を活用しながら地域が元気になるような取り組み

地域おこし協力隊 内山拓也  
【情報発信プロジェクト】



福栄の人は美しく優しいと思います。この場所にいるという夢と誇りを胸に全力を尽くします。

地域おこし協力隊 石井孝治  
【特産品開発プロジェクト】



福栄の方々と一緒に汗をかきながら、何事も「楽しむこと」を忘れずにチャレンジしていきます。

地域おこし協力隊 亀森譲  
【生活支援プロジェクト】



木野俣集落センターで7月に始めた地域福祉活動など、住民の暮らしに関わることに取り組みます。

福栄地区の活性化に向けた課題

- ▷地域コミュニティの活性化
- ▷地域資源を活用した生きがいづくり
- ▷地域の暮らしを守る仕組みづくり(雪・健康・買物対策)
- ▷生活環境の整備(空き家対策、水路整備)

福栄地区  
地域おこし協力隊

■平成27年度～29年度の活動

- ①情報発信プロジェクト
- ②特産品開発プロジェクト
- ③生活支援プロジェクト
- ④集落間の連携強化
- ⑤福栄小学校の校舎の利活用策の検討

木野俣集落での地域福祉活動

集落に住む障害者や要介護の高齢者の暮らしを支えるため、雪囲いやごみ出し、除雪など生活の中で大変なことを集落全体で解決できるような仕組みづくりを進めています。その一つとして7月3日から取り組んでいる活動は、福栄地区に診療所を開設し、地域福祉の拠点とするものです。健康相談を行うなど施設の利便性を高め、医療・福祉環境の充実につなげていきます。

温海特産品まつり



温海地域の特産品が並ぶこのまつりに隊員が参加。福栄地区の栃餅などを販売し、住民と交流を深めました。

福栄地域協議会「福の里」  
会長 忠鉢孝喜さん



焦らず、肩肘張らず、しっかりと地域を見つめて福栄にしかない文化や伝統などの地域資源を、新しい視点で掘り起こしてもらいたい。地域活性化の起爆剤になることを期待します。

福栄地域活性化推進員  
五十嵐丈さん



「地域住民の皆さん一人ひとりが笑顔になる」。協力隊とともに、そんな活動をしていきます。※地域活性化推進員とは「福の里」に勤務する職員で、隊員の活動をサポートします。

地域を支える力に

一年目の今年度は、福栄地区の地域と人を知ることから隊員の活動が始まりました。福の里や福栄地域活性化推進員と協働しながら、地域の活性化と若者の定住・定着を進めていきます。

地域づくりの主役は住民ですが、協力隊には「明るく活力ある地域にしたい」「住み良い地域にしたい」という住民の思いを共有しながら、地域づくり活動を支える力になることが期待されています。

自分が住む地域の将来に向けた希望や誇りを形にするため、市では地域や隊員と連携しながら集落の維持・強化につながる取り組みを続けていきます。

を進めてきましたが、地域の活性化に向けた大きな推進力になるよう、協力隊を受け入れました。隊員にはそれぞれに「情報発信」「特産品開発」「生活支援」の三つのプロジェクトと、共通する任務が割り当てられています。

▽情報発信：福栄地区の自然や暮らし方などの魅力を掘り起こし、様々な情報媒体を活用して発信  
▽特産品開発：ワラビやナメコ、温海かぶなどを活用した特産品開発や商品化、特産品を活用した体験プログラムなどの企画立案・実証  
▽生活支援：買物の支援など中山間地域における生活支援の仕組みづくり  
▽共通任務：集落間の連携強化